

ウスメバル放流種苗作出試験（小泊・下前・三厩）（要約）

高橋拓実・鈴木亮

目 的

流れ藻に付随して陸奥湾内へ移動してきたウスメバル稚魚を採集し、放流適サイズまで中間育成して放流用種苗の作出を行うことで、種苗放流による資源造成を図る。

材料と方法

1. ウスメバル稚魚の採集

2022年5月12日から6月1日に、陸奥湾内の青森市奥内地区及び後潟地区のホタテガイ養殖施設54箇所に設置したホンダワラ海藻トラップに集まったウスメバル稚魚をタモ網で採集した。稚魚採集はトラップに使用したホンダワラが流失するまでの間に、奥内地区で8回、後潟地区で4回の合計12回行った。採集したウスメバル稚魚は一時的に、青森市水産振興センターの陸上水槽に収容した。

2. 放流用種苗の育成

2022年6月2日及び6月16日の2回に分けて、青森市水産振興センターから当研究所へ運搬を行った。運搬したウスメバル稚魚は八角形型10トン水槽1面に収容し、中間育成を開始した。餌は中間育成初期には冷凍コペポダを給餌し、口径が大きくなってきたら配合飼料も与え、最終的には配合飼料のみを用いた。7月15日に選別及び分槽を行い、八角形型10t水槽2面に分けて育成した。

結果と考察

1. ウスメバル稚魚の採集

採集できたウスメバル稚魚は、5月に8,950尾、6月に300尾の合計9,250尾であった。

2. 放流用種苗の育成

放流用種苗の育成結果を表1に示した。

中間育成後の生残率は97.3%で、9,000尾の放流用種苗を作出した。育成した種苗のうち、2022年12月9日に2,000尾（平均全長74.4mm、平均体重6.6g）を三厩漁協へ、2023年2月7日に2,000尾ずつ（平均全長85.0mm、平均体重10.1g）を下前漁協と小泊漁協へ運搬した。放流場所は各々、三厩沖（水深40m、魚礁付近）、下前沖（水深45m、魚礁付近）、小泊漁港内（ホンダワラ藻場）であった。

表1. 放流用種苗の育成結果

中間育成 開始日	収容尾数 (尾)	収容開始サイズ		中間育成 終了日	取上げ尾数 (尾)	生残率 (%)	取上げサイズ		放流場所
		平均全長 (mm)	平均体重 (g)				平均全長(mm) [最大：最小]	平均体重(g) [最大：最小]	
2022/6/2 2022/6/16	9,250	24.7	—	2022/12/9	2,000	97.3	74.4 [94：54]	6.6 [13.9：1.8]	三厩沖 水深40m(魚礁設置付近)
				2023/2/7	2,000		85.0 [105：72]	10.1 [20.7：6.5]	下前沖 水深45m(魚礁設置付近)
					2,000				小泊漁港内 (ホンダワラ藻場)

発表誌：小泊・下前・三厩ウスメバル放流種苗作出試験報告書。

（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所, 2022年12月, 2023年2月。